

ることながら、沿線地域住民の心のこもった歓迎や「おもてなし」によるものと強く実感しているところである。

世界自然遺産白神山地や自然美あふれる夕陽海岸は、他に類を見ない当町の誇り高き観光資源であり、この多彩で奥深い魅力を生かし、人の流れをさらに生み出していくことが当町の観光の大きな役割と認識している。

都市圏など、中央をはじめとする町外からの交流人口の拡大、更なる外貨の獲得を図るとともに、「訪れる人」「働く人」そして「地域の人」がそれぞれに当町の魅力、価値を高く評価し、幸せを共に感じることができる地域形成を目指し、引き続き、有効性の高い広告宣伝媒体を厳選し、投資対効果を踏まえ、戦略的に実践・検証を行いながら、持続性のある観光地経営の推進、観光まちづくりを進めたい。

6次産業の展開について

《今議員》

地元資源を活用した6次産業の活性化を図り、町内外での販売や、都市部でのアンテナショップ等での販売を通して、新たな町づくりを可能とする財源を確保することができると思うが、今後の展開について伺う。

《町長》

6次産業とは、一次産業である農畜産物の生産だけでなく、二次産業である加工や三次産業の販売に取り組む経営形態を指し、新しい商品や生産物に付加価値を生み出すことにより、農林水産業の活性化を図ろうとする取組である。当町においても、農業者や漁業者が自ら加工・販売に取り組んでいる事例があり、株式会社あおもり海山のマグロ加工は、全国的にも注目される6次産業の代表例といえる。農業者・漁業者が単独で6



▲深浦町農水産物加工場(舩作地区)

次産業化に取り組むには多額の設備投資、食品加工技術や衛生管理の知識、販売ノウハウが無いなど、今なお多くの課題が残っているが、当町では、地域をひとつの主体とみなし、地域の生産者や加工者、販売者が連携して6次産業に取り組む「地域ぐるみの6次産業化」を構想し、この仕組みの中核施設として、平成24年度に舩作地区に深浦町農水産物加工場を整備した。

6次産業を進める上で販売先の確保は非常に重要であり、町では6次産業に携わる事業者

者が商品開発・商品改良、販路開拓等を行う際に課題となる事柄を、町と専門家が事業者と共に解決する「深浦産品ステツプアップ事業」を実施し、ウエスパ椿山やアオーネ白神十二湖に特産品コーナーを設置して観光客に向けて積極的にPRしているほか、都市部においては、東京都内にある青森県アンテナショップ「あおもり北彩館東京店」への商品提案、首都圏で開催される食品展示商談会に出展することともに、ふるさと納税返礼品に活用することで商品の販路拡大を図っているところである。

今後、6次産業を町の新たな産業として育成、発展させるため、県や青森県産業技術センター、弘前大学等の関係機関と連携しながら、加工に向けた新たな作物の栽培や商品開発・販路拡大など、関連する各事業において総合的に支援していきたい。



▲ウエスパ椿山物産館「コロボックル」特産品コーナー



▲アオーネ白神十二湖森の物産館「キョロコ」特産品コーナー